

## 二重盲検による食物誘発試験を主とした 食物アレルギーの診断

群馬大学医学部小児科学教室  
森川昭廣

要約：卵アレルギー患者48名を対象とし二重盲検による食物誘発試験（DBPCFC）を施行したが16名で陽性であった。陽性群と陰性群において血清総IgE値、卵白特異IgE抗体値、卵白特異IgG4抗体値に有意な差はみられなかった。卵の完全除去群と不完全除去群において血清学的検査結果に有意な差はみられなかった。食物除去期間とDBPCFC、卵白特異IgE抗体値、卵白特異IgG4抗体値に関連はみられなかった。食物アレルギーの診断に、より客観的な方法の開発が必要であると考えられた。

見出し語： 食物アレルギー，食物誘発試験，食物除去

食物アレルギーの治療が日常診療において混乱をきわめるひとつの理由に、その診断が困難なことが考えられる。食物アレルギーの診断には詳細な既往歴、家族歴の聴取が必要で、食事日記から食事と症状発現との関連を確認しながら、各種アレルギー学的検査を並行して行ない原因抗原を推定するのが一般的である。その後、特定の食物の除去試験、さらに誘発試験を行ない原因抗原を確定する方法がとられる。しかし実際には、病歴から原因抗原を推測する過程においてすでに混乱があり、臨床症状と検査所見の間に不一致が生じることや、完全な食物除去の困難なことから食物除去試験にも問題があり、さらに誘発試験の際の判

断がblindでないため主観が入り込みやすく、その信頼性に疑問が生じる場合がみられる。

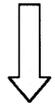
今回、我々は食物誘発試験と血清学的検査との関連、さらに食物除去による血清学的検査の結果や症状の改善につき検討した。食物誘発試験にはもっとも信頼のおけると考えられる二重盲検による食物誘発試験（double blind placebo-controlled food challenge, 以下DBPCFC）を施行した。この方法によれば対象となる抗原の色、香り、味覚がチョコレートシロップにて消されることから完全な二重盲検法が施行できる。入院の場合4回の誘発試験、外来の場合は2回の誘発試験を行なった。観察者には毎日、症状の判定を依頼した。

今回は卵アレルギーに注目し、外来患者32名、入院患者16名で、総血清IgE値が高く卵白特異IgE抗体が陽性のものを対象とした。これらの対象にDBPCFCを施行したところ、外来患者では12名(37.5%)、入院患者では4名(25%)が陽性であった。この陽性群と陰性群において血清総IgE値を比較したが有意な差は認められなかった。卵白特異IgE抗体についても両群間で有意な差は認められなかった。卵白特異IgG<sub>4</sub>抗体についても両群間で有意な差は認められなかった。リンパ球幼若化反応とDBPCFCの結果とは関連が認められなかった。DBPCFCが信頼できる抗原の検索法であることは周知の事実であるが、今回、DBPCFCと血清学的な検索との関連を検討したが、両者の不一致が目立った。DBPCFCにおいても長所、短所がありこの点を踏まえて今後さらなる検討を加えたい。

さて、食事除去はすべての食事アレルギー患者について適用があると思われるが、完全な除去が行ない難しいものであることも事実である。完全な除去が行なわれた群と行なわれなかった群の間で血清総IgE値を比較したが有意な差は認められなかった。卵白特異IgE抗体の推移についても両群間で有意な差は認められなかった。卵白特異IgG<sub>4</sub>抗体についても両群間で有意な差は認められなかった。さらにDBPCFCの結果と食物除去期間には有意な差は認められなかった。また、食物除去期間と卵白特異IgE抗体の間にも有意な差は認められなかった。卵白特異IgG<sub>4</sub>抗体についても有意な差は認められなかった。実際の食物除去の効果は母親の印象に注目すれば初期から現在まで60%以上が改善(“良くなった”以上)

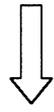
を認めているが、患児については40%以下である。さらに食物除去についての心理的なマイナス面を母親、患児ともに高率で認めているのが現状である。

今後、より客観的な方法で食物アレルギーの診断を行ない、その治療についても多方面からの詳細な検討を行なう予定である。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:卵アレルギー患者 48 名を対象とし二重盲検による食物誘発試験(DBPCFC)を施行したが 16 名で陽性であった。陽性群と陰性群において血清総 IgE 値,卵白特異 IgE 抗体値,卵白特異 IgG4 抗体値に有意な差はみられなかった。卵の完全除去群と不完全除去群において血清学的検査結果に有意な差はみられなかった。食物除去期間と DBPCFC,卵白特異 IgE 抗体値,卵白特異 IgG4 抗体値に関連はみられなかった。食物アレルギーの診断に,より客観的な方法の開発が必要であると考えられた。